

とっとりグリーンウェイブ森林環境フォーラム

鳥取の林業^{ゆめ}夢^{かた}語り

～現場で輝く女性たちを迎えて～

2016年11月23日（水・祝日）

会場：智頭町 旧山形小学校

報告書



とっとり環境の森づくり普及啓発事業

主催：柚塾・鳥取県

協力：恋山形運営協議会・智頭町立図書館



目次

1. はじめに
2. 来賓挨拶
3. 第一部 講演「林業とわたしの出会い」
4. 第二部 音楽コンサート「森林の響き」
5. 第三部 パネルディスカッション
「林業・森の未来と夢」
6. 会場風景
7. 参加者の声 ～アンケート結果から～

1. はじめに

とっとりグリーンウェイブ森林環境フォーラムは、鳥取県民のみならずからの「鳥取県森林環境保全税」を活用して開催しています。この税金についての広報を兼ねるとともに、森や林業に親しんでいただく、また森林（もり）づくりへご興味を持っていただくきっかけになればと願いながら行いました。申込み不要、入場無料で、どなたさまでも参加しやすいようにと考えて手話通訳、託児にも取り組みました。また、コンサートやカフェスペース等を設けることで、林業を専門とされていない方々にも「ちょっと行ってみようか?」と思っただけのように工夫をしました。

今年のテーマは、「鳥取の林業夢語り」～現場で輝く女性たちを迎えて～。近年、林業の分野では女性の活躍が増えてきています。「どうして森や林業に関われようと思われたのか?」「普段どのようなことを感じられているのか?」「森や林業の魅力は何か?」「これからの夢としてどのようなことを目指されているのか」ということを、お聞きしてみたい、みなさまにお届けしたい、と思い、ゲストの方々をお招きしました。

企画は、林業と自然暮らしの実践塾「智頭の山人塾」を主催する柚塾(そまじゅく)が担当しました。みなさまの心に響くものがありましたら幸いです。

とっとり環境の森づくり普及啓発事業

とっとりグリーンウェイブ森林環境フォーラム

鳥取の林業夢語り

～現場で輝く女性たちを迎えて～

入場無料

第1部: 13:30～
講演「林業とわたしの出会い」
中島 彩 (有限会社ウッズ) 専任木材コーディネーター
兵庫県丹波市在住

第2部: 14:30～
音楽コンサート「森林の響き」
榎橋 恭子 (ヴィオラ)
門脇 卓人 (クラシックギター)

第3部: 15:10～ パネルディスカッション
「林業・森の未来と夢」～中島彩さんと一緒に～

同時開催 12:00～
☆林業活動のパネル展示
☆森林環境保全税の活用紹介
☆図書・絵本展示
☆森のカフェ (自家焙煎珈琲・ホットサンド他)
ご予約ください。

パネリスト		コーディネーター	
赤松澄江 赤松 澄江 林業家	李明輝 李明輝 森林保全団体 more trees	坂本トヨ子 株式会社サカモト 代表取締役	西村早栄子 智頭町民会 まちたんぱう代表
よねだあさみ 米田亜沙美 鳥取大学教育研究科 助教 管木	山本福壽 智頭の山人 専務 智頭大学教育研究科 講師 林田		

とき: 11月23日(水・祝日) 開場 12:00 開演 13:30 (16:00 終了予定)

ところ: 智頭町 旧山形小学校 (鳥取県八頭郡智頭町大字郷原 238)

交通: 鳥取自動車道「智頭インター」から7.8km (373号線を千代川沿いに岡山方面へ進み、山形郵便局のある郷原の信号を左折。智頭急行「山形駅」から1km。)

駐車場: 近くの智頭町民体育館 (徒歩3分) にお預けします。体積等で会場近くにおとめになられた方はお預けに事前にご連絡ください。出来る限りお預けいたします。

手話通訳 託児あり (※託児は1才以上で定員があり、11月16日(日)までにTEL:090-4540-5726にお申込みください。)*定員とあわせてお申し込みください。上履き、またはスリッパがあると便利です。

ボランティアスタッフ募集中! 森林づくりにご興味のある方は、ぜひご連絡ください。みなさまのご協力によって美しい街並みとなるように、一緒に活動してみませんか。

この事業は、鳥取県森林環境保全税を活用して、「平成28年度とっとり環境の森づくり普及啓発事業」の「とっとりグリーンウェイブ森林環境フォーラム」として開催します。
※森林環境保全税については <http://www.pref.tottori.lg.jp/100906.htm>

主催: 柚塾 鳥取県 協力: 鳥取県環境協会 智頭町立智頭図書館
〒689-1415 鳥取県八頭郡智頭町郷原238 旧山形小学校内
お問い合わせ先: 柚塾 TEL:090-3378-4058 メール: marinokatori.chizu@gmail.com

フォーラムへのご招待状

森林、林業、自然暮らし、環境問題、子育て、音楽等にご関心のあるみなさまへ

こんにちは。林業と自然暮らしの実践塾「智頭の山人塾」を主催している柚塾です。この度初めて、「鳥取県森林環境保全税」を活用した委託事業を受け、とっとりグリーンウェイブ森林環境フォーラムを開催することになりました。みなさまは「鳥取県森林環境保全税」のことをご存知でしょうか。この税金は県民のみならずから集められています。今回のフォーラムは、鳥取県庁の森林(もり)づくり推進課の方々と一緒に企画を進めています。

鳥取県には豊かな森林があります。この貴重な自然や、森林からの恵みを次の世代に伝え残していくために、本当のところ、今どのような活動が必要なのでしょう?

<とっとりグリーンウェイブ森林環境フォーラム>は、平成25年に鳥取県で開催された全国植樹祭をきっかけに始まりました。今年、歴史ある林業地・智頭町の旧山形小学校(木造校舎・国の登録有形文化財)を会場に開催します。

近年、林業の現場では、女性の活躍が増えてきました。ゲストの中島彩さんは兵庫県丹波市在住の方で、鳥取県とも縁があり、「森の健康診断」、チェーンソーの使い方も指導されています。

またパネリストとして、県内および東京から林業や森に関わる活動をされている女性の方々をお招きし、これからの鳥取の、また日本、世界の森林づくりについて、みなさまと一緒に考えて、未来への夢を語ってみたいと思っています。

テーマに合わせて、今回は木を使った楽器の演奏も企画しました。お迎えするのは、鳥取県ご出身で県外でも活躍中の榎橋恭子さん(ヴィオラ)と、大山町ご出身の門脇卓人さん(クラシックギター)です。樹木から生み出された楽器の音色を、ぜひお楽しみください。

林業活動や図書・絵本の展示、森のカフェ(自家焙煎珈琲・ホットサンド他)の売店、手作り記念品も用意しています。ご家族みなさまで、ぜひお気軽にどうぞ。

紅葉彩る秋の一日、みなさま、おひとり、おひとりのご参加をお待ちしています。

柚塾(そまじゅく)

〒689-1415 鳥取県八頭郡智頭町郷原238 旧山形小学校内
TEL:090-3378-4058 メール: marinokatori.chizu@gmail.com

フォーラム開催のお知らせチラシ

広報活動として、チラシ(県内外に配布と新聞折込)、新聞掲載、ラジオ放送(FM鳥取「RADIO BIRD」)、テレビ(NHK鳥取放送局ふるさと伝言板)、鳥取県ホームページ、ととりの元気づくり会議での宣伝、鳥取県関西本部メールマガジン、Facebook、智頭町内告知端末等を活用しました。

2. 来賓挨拶

智頭町長 寺谷誠一郎氏から、開催にあたり、ご挨拶をいただきました。戦後からの日本の復興のお話があり、現代社会のストレス問題への対応として、「お待たせしました。いよいよ山の出番です！」という時代の流れを感じられていること、「みんなでもう一回森をとり戻そう。森で勝負をかけよう。」と、森での活動への意気込みを話されました。

結びに、「今日がこの本当に鳥取の林業夢語り、これ、夢じゃなくて、現実にするための会だと思えます。」と語られ、フォーラムの開催を喜ばれていました。



3. 第一部 講演「林業とわたしの出会い」

講師は、中島彩さん（有限会社ウッズ・准木材コーディネーター）、兵庫県丹波市在住。

今回のフォーラムを開催するにあたり、近年林業の世界で女性の活躍が徐々に増えており、その中で鳥取にも緑のある中島彩さんをぜひお迎えしたいという想いからこの企画は始まりました。中島さんは現在様々な地域で活動をされ、多くの方が木に親しまれるきっかけを作られています。以前は舞踊手をされていた中島さんが、「どうして林業の道を選ばれたのか？」ぜひ、ご一読ください。

中島さんは2008年から林業に従事され、鹿児島、広島、長野、兵庫へと活動の拠点を広げられ、9年目を迎えられました。

幼少の頃は、自然の豊かな山側の神戸で過ごされ、お兄さんの友達と一緒に「遊ぶといえば山に行く」という暮らしで、山は自分の遊び場で、自分の居場所だと思われていました。そういう大切な場所が、ある日更地になり、マンションが建った時、そこにいた動物や魚、生き物はどこへ行ったのかと、身の回りの急激な変化を目の当たりにされ、「何かすごい勢いで、何か失っているんじゃないか」と気づかれ、小学校の卒業文集に書かれた将来の夢は「山を取り戻す」という思いだったそうです。

一つの転機になられたのが、お母様とのカナダ二人旅行でした。ロッキー山脈の山中に入られた時に、しみじみ「ああ、本当に生きていてよかったなあ」と生きる力を感じられて、その後、カナダ留学を目指されました。無事留学が叶い、山一色のホストファミリーに恵まれ、生活に山が密着している生活を送られました。その中で、小さい頃からバレエをされていた中島さんは、ご自分の「踊りたい」という気持ちを改めて感じられ、帰国後、大学を経て「25才までとにかく踊ろう」と決意され、海外での舞台出演という経験もされました。

そして25才になられた時に、昔思い描いていた山に関わる仕事、森林に関わる仕事への夢が沸き起こり、徐々に木にまつわる講座や、森林環境ボランティア活動へ出席されて、林業へのアンテナを広げられたそうです。その中で、「人工林が豊かな森になれば、日本の山は変わるんじゃないかな」と思われ、樹木医の仕事の様子を見られた時、「山を健全な状態に持っていく、そういう仕事はできないのかな」「よし、山に関わる仕事、林業をやってみるか」と、そこで林業への道を目指されました。

「現場をまずやれる人間になろう」と、鹿児島での「きこり塾」という県が主催している林業支援前講習に参加、林業の六つの資格を全部取得されました。その後、就職先を探された時、ご自分の中にある「私はチェーンソーで一本の木を倒せるような人になりたい。自分できっちり木と対話しながら、山をどうしていくかっていうことを考えながら林業をしたい」という思いを持たれました。そして林業の仕事に携わられていく中で、現場の方の言葉に心打たれることがあり、再びご自分の目指される林業ができる場所を求められ、広島県の安田林業で仕事をされるようになりました。そこでは、「いろんな目的でいろんな宝をみんなで分け合っている山が目の前に広がって」いたそうです。その後、長野での経験を経て、現在の兵庫県丹波市の有限会社ウッズに就職されました。そこで現場の仕事を多く経験される中で、木や山の本当の価値を、木を伐る人自身が知ることの重要性に気づかれました。その他、安全講習のこと、子供達の教育、林業や森での活動への想いを語っていただきました。



最後に、中島さんにとって林業とは「まさにつなぐ仕事だと思っています。」と。そして、つながりを担えているという、やりがいのある現在のお仕事をされる日々感謝されていると話されました。

中島さんのお話には、生き方、というテーマも含まれており、林業という分野の方だけではなく、またの機会がありましたら、子供達を含め、ぜひ多くの多くの方々にもお聞きいただきたい内容でした。

中島さんのご講演や、音楽コンサートでの壇上での素敵な家具は、木のある暮らしのぬくもりをお感じいただければと、パネリストの坂本さんの会社、株式会社サカモト様よりお借りしました。ご協力をありがとうございました。



4. 第二部 音楽コンサート「森林の響き」

フォーラムのテーマに合わせ、樹木からつくられた楽器の演奏をぜひ会場でみなさまにお届けしたいという思いから、今回は鳥取県ご出身で、各地で活躍されていますお二人をお迎えすることが出来ました。ヴィオラとバイオリンを柵橋恭子さん、クラシックギターを門脇卓人さんをご演奏くださいました。

曲目は、「エンターテイナー」、「白鳥」、「アルペジオーネ・ソナタ」、「カンタービレ」、「弥生の風」、「タンティ・アンニ・プリマ」。

演奏の合間には、柵橋さんが楽器の解説もしてくださいました。

ヴィオラとバイオリンでは、大きさや音の高さの違いがあることや、弦楽器はほとんど木で出来ていて、表板は松の木、それも寒いところに生える硬い松で出来ており、裏の木はホットケーキにかけるメープルシロップで知られている楓が使われていることなどを話され、木と音楽とのつながりを身近に感じることが出来ました。ヴィオラという楽器は、しっとりした曲がとても多いそうです。柵橋さんは檜のお風呂だとか、木の空間に囲まれた時に木の香りでホッとすると、また癒される気持ちになられることを話され、そういうゆったりとした気持ちでお聴きいただければ、と来場者への心くばりもいただきました。

ご友人の平尾かなえさんが、妻木晩田遺跡での暮らしをイメージされながら作曲された「弥生の風」からは、過去から今へと時代のつながりが感じられ、土の香りまでもするようでもあり、弦楽器の新しい表情を感じさせる演奏でした。森に由来する楽器の繊細で優雅な響きに、会場からは大きなあたたかい拍手が湧きました。

季節柄、寒さもある中で、素敵な装いで演奏される姿に、プロ意識の素晴らしさも感じることも出来ました。



5. 第三部 パネルディスカッション「林業・森の未来と夢」

コーディネーター：

山本福壽（「智頭の山人塾」塾長・

鳥取大学乾燥地研究センター特任教授）

パネリスト：

中島彩（有限会社ウッズ・准木材コーディネーター）

赤堀澄江（赤堀農林・林業家）

李明燁（森林保全団体 more trees）

坂本トヨ子（株式会社サカモト 代表取締役）

西村早栄子（智頭町森のようちえん まるとんぼう代表）

米田亜沙美（鳥取大学教育研究林 技術職員・樹木医）

（写真左から順番に）



林業の現場、教育、森林保全、製材、販売という多方面の視点から、これからの林業・森への夢を語っていただきました。それぞれの方に熱い思いがあり、またそれを受けて来場者の方々も最後まで席をはなれられることなく、中にはうなづきながら聴かれる方もありました。

はじめに、コーディネーターの山本福壽氏が、パネリストの方々にこれまでの森や林業との関わりを尋ね、その後未来への思いや夢を、みなさまにお話しいただきました。生の言葉を交えてお伝えします。

赤堀さんは、智頭町内で子育てと主婦をされながら、ご主人と30年間林業を続けてこられました。息子さんか跡を継がれるということで、バトンタッチで、一ヶ月ほど前に、現場をはなれられることにされたそうです。これからはご自身の「森のめぐみ工房」でかざら編みをされたり、という暮らしに移られていくというまさに転換期を迎えられたところです。これまでのことを振り返られながら語られました。「春になったら、いろいろ花も咲きます。そういう花を愛でながら、林業していくっていうのも、頑張れたかなって思っております。これからは山家暮らしを植物を通じて、自然を通じて楽しんでいけたらいいのかなあっていう風に思っております。」「緑の杉林、檜林の中に紅葉する木があるっていうのは、秋には楽しませてくれるものですし、杉・檜はこれまで生活の糧として、本当に感謝していますので、今度はその杉・檜の見栄えをもっとよくするような山になるようにチャレンジしていけたらいいんじゃないかな。」林業という仕事の現場で、日々自然の美しさを感じられていたことが伝わってきました。

李さんは、東京の森林保全団体 more trees でご活動中です。この団体は坂本龍一さんを代表とされ、日本に多くある森を活かして行こうと、全国各地で11の地域、鳥取では智頭町と一緒に協定を結ばれ、more treesの森を展開されています。都市と森をつなぐという言葉がキーワードに日々活躍です。夢について、「都会にいる消費者の人のメインに、どう木材を提案したらその良さを知っていただけるか、どう生活に取り入れやすくご提案できるかということをやらせていただいているんですけども、夢というか、やらなきゃならないこととしては、我々はそれをずっと続けていくべきだなあと考えています。」「森林がすごくあることが当たり前すぎるんですけども、それがすごく素晴らしいことである、価値があるということをとくさんの人に伝えていきたいなと思いますし、その木の良さを皆さんが分かってくだされれば、こういう林業の地域としても循環が生まれて、林業はずっと続けられるっていう形になると思うので、入り口としてずっとずっと機能していくっていうことをやりたいし、夢で持ってやっていきたいなと思っています。」

坂本さんは、智頭町で製材所をされ、お仕事について「百年前くらいに植えられた杉や檜を主に使用して帯鋸っていう本当に昔ながらの製材所のやり方で製材して、ちゃんと天然乾燥したり、人工乾燥したり、現代の住まい方に合うように製品づくりをしています。」と。昔の人が丁寧に手入れした地元の木の良さを「本当に世界に誇れる木」とまっすぐ話される姿に、林業の未来を感じました。智頭のことを「今では、こんな美しい景色はないって思うようになって、東京に出たり、まあいろんな所に行った時にはいろんな人とお友達になって、智頭町に遊びに来てくださって言って、観光としての山づくり、そういう方に向かっていけたらいいなあって思います。今私の本当の夢は、智頭町全体が見渡せると言われている穂見山(ほのみせん)に道がついて登れるようになったらいいなあって思います。」「どんどん日本中から観光客を呼んで智頭町を観光地のメッカにしたいなあと考えています。」

西村さんは、全国でも注目される森のようちえんの活動をされ、「この森を子育ての場として、どんどん広げていきたい。横と縦に広げていきたいっていう夢を持っています。」横について、「ちょっと田舎に行けば、森のようちえんが当たり前があって、誰でも選んで幼児教育が受けられるという、森の教育が始められるっていうふうになってほしいなあって思っています。」と地域的・ネットワークの広がりを表し、縦については、年齢・世代等に関して話され、森のようちえんで培われた感性や感覚など、「子供の育ちをそのままのぼしていける自由な教育っていう場があってもいいんじゃないということで、今フリースクールもやっています。産むところから育つところ、学ぶところと一連して自分の力でっていうようなところを育ていける、そういう教育の場がこの森の中に、山村にできていたら、すごく素敵だなあ、なんていうことを夢に思って活動をいろいろしているところです。」

米田さんも教育の現場、鳥取大学の教育研究林で森林の管理をされている毎日です。多くの学生の方々との出会いもあり、「夢と言われると、やっぱり学生の教育ですかね。」と。チェーンソーを使った作業など、仕事をされている時に思われるのが、「山っていいよな」ということで、それは「言葉では本当に言い表せないような感じでそういうのをちょっとでも学生も感じてもらって、山っていいよなって思ってもらえたらいいかなって思ってます。」「学生が各地で就職して、そこで技術者になることで、正しい森林教育というか、そういうものを各地で広めていける存在になったらいいなというのが私の夢ですね。私達には出来ないことを各地でどんどんやってもらいたいとは思ってます。」

中島さんは、「山主さん、森林所有者と山をつなぐっていうことを夢にしています。」「日本全国では実は自分の山があることを知らない、自分の山がどこにあるかも知らない、行ったこともないっていう人が本当に大勢いるんですね。」そしてそういう方々が、いざ山を伐ってお金にしようと思っても、今の木材価格がどれくらいで、自分の木がどれほどの価値があるのかわからない現状に対し、「山主さんがきっちり自分の山を知るっていうことを私は広げていけたらなっていうのを大きい夢で持っています。」

山本塾長は、「女性が入ってくることによって、林業ががらりと変わる。そして今までになかったセンスの山の使い方、製品の生まれ方、製品そのもの、それから都会へのつながり、様々なところで実は我々山サイドにとってはですね、女性がどんどん活躍する社会っていうのが、夢がものすごくある社会なんだというふうに感じています。」「私は柚塾という塾、まあこれは、一種の林業関係の私塾を立ち上げたつもりで、その柚塾が智頭の山人塾という活動をお助けさせていただいてというふうに、考えて今やっております。少しでも自分の持っているものを地域、鳥取、日本全体に還元していきたいなあと考えて、仕事をしてきております。その中で今回このイベントを企画させていただきました。女性の活躍にやはり目を見張るものを覚えたんですね。ということで、これからは夢があります。特に智頭から、あるいは鳥取から、あるいは世界に向けてですね。いろんな情報発信するうえで、女性に期待していきましょう。」



6. 会場風景

講演会場は国の重要文化財に指定されている木造校舎、旧山形小学校の体育館でした。同時開催として、校舎1階では、森のようちえんや林業・自然活動のパネル展示、森林環境保全税の活用紹介、図書・絵本展示、森のカフェ（自家焙煎珈琲・ホットサンド・智頭の特産柿の葉寿司等）、また2階の和室は託児室として活用をしました。木製品の良さをお伝えたく、展示用パネルの額は、今回用に県内の工作社様に作成していただきました。材質はキハダ（*薬用や染料の材料として用いられる）です。親しみやすい空間作りを目指し、子供達の姿もありました。



司会：古谷葉子さん



手話通訳の様子



森のカフェ



書籍販売（今井書店）



図書展示（智頭図書館）



活動紹介展示（智頭農林高等学校）



（森のようちえん まるたんぼう）



（中島彩さん現場風景
有限会社ウッズ）



手作り記念品



ゲストの方々への昼食

智頭町の言葉絵作家で、コミュニティスペース野原のcafe ぼすとをされている澤田直見さんにご準備いただきました。手作りの心あたたかいお食事は、素材にもこだわりがあり、好評でした。

7. 参加者の声 ～アンケート結果から～

当日は約130名の参加者の方があり、アンケートにみなさまが丁寧にご回答くださいました。ご協力と、貴重なご意見を本当にありがとうございました。

問1) 今日はどこからお越しになりましたか？（1. 智頭町内 2. 鳥取県内 3. 県外） *（ ）内は回答者人数。

- 1 智頭町 (20) 40.0%
- 2 鳥取県内 鳥取市 (20) 40.0% 琴浦町 (1) 2.0% 八頭町 (3) 6.0% 倉吉市 (1) 2.0%
- 3 県外 三重県 (1) 2.0% 兵庫県 (2) 4.0% 岡山県 (2) 4.0%
- 小計 (50) 100%

問2) このフォーラムを、どこでお知りになりましたか？

- チラシ (21) 44.7% 口コミ(友人・知人) (12) 25.5% 新聞 (4) 8.5% 智頭町内告知端末 (2) 4.3%
- 森っ子クラブ (1) 2.1% Facebook (1) 2.1% 智頭町に旅行に来て (1) 2.1% ポスター (1) 2.1%
- 元気づくり会議 (1) 2.1% ラジオ (1) 2.1% 鳥取県 WEB サイト (1) 2.1% 学校、保育園から (1) 2.1%
- 小計 (47) 100%

問3) ゲストの方々へのメッセージがありましたら、どうぞ。

- ・林業、森、音楽に携わる皆さんのそれぞれのかたちのプロ意識の高さに感銘を受けました
- ・立場の違いはあれ、それぞれに素晴らしいと思いました・健康第一でがんばってください
- ・中島さん：目標に向かって突き進んでいらっしゃる姿勢により刺激をいただきました。棚橋さん：素敵な音色にとても心が洗われました。ビオラがどんな木から構成されているのか説明があつておもしろく聴けました
- ・中島さんへ：自分の力を、自分を信じ、生かし、育てている姿に感銘を受けました。まわりを大切に感謝しながら生きる姿、素敵です。またお会いしたいです。棚橋さん・門脇さんへ：ビオラのやわらかく深い音色やはり、とても大好きです。控えめに優しい音の門脇さんのギターもとても心地よかったです。ていねいな響きですね。ヴァイオリンも語りかけるように聞こえました。“弥生の風”もほんとすてきでした。自然の風と日常の暮らしがうかぶものでした。ありがとうございました
- ・私も森林に小さいころからいやされてきました。中島さんのような森を愛する方が林業に携わっておられて本当に心からうれしく感じます。私は林業に携わっていませんが、森林に対して感謝をするきもちがあるので、何か森林に対してもできることがあればしていきたいです
- ・林業好きがかかわることで今までと違うことをするという意味でも希望が生まれると思います。もっとほかの町でも同じ空気が生まれるとステキだなと思いました。

問4) フォーラムのご感想をどうぞ。

- ・フォーラムに音楽コンサートを取り入れてあり、大変良かったです。皆さんの夢、応援したいです
- ・大変刺激を受けました。木は一度伐られることで木の生を終え、木製品や建築材になることで木の生を生きる訳ですが、木の生としての炭の可能性にも目を向けていただけたらと思います
- ・智頭町の森に対するさまざまな感想や思いが地域の発展につながるのかと思った
- ・木で作った楽器でのコンサートがとてもよかった
- ・自分にとっての“夢”を改めて考えさせられました
- ・休憩中にカフェや山形小学校の見学ができてよかったです。女性ばかりの話もいいなと思いました
- ・話の内容、流れがおもしろかったです。林業について知らない人もついていける内容でした。
様々なきっかけで林業にかかわっていらっしゃる女性方の話が勉強になりました。建物が寒かったです。
- ・林業、森を身近に感じる良い機会となりました。有難うございました。
- ・木や森は多くの可能性を持っているのだと感じました
- ・智頭町の山に対する取り組みが感じられました。山と人とのかかわり、概説で、人間は自然の中の一部で自然がないと生きていけない！自然本来の循環型環境を考えるうえで、山は水の出发点で大事な部分だと思います。現在のストレス社会から昔の製材所の人つながりがある温かい社会に変わってほしいなと思います
- ・3つの部門（音楽・話・ディスカッション）から構成されてよかった。それぞれに集中して興味深く聴けました。アナウンスの音が聞きやすくてよいですね
- ・町内町外のたくさんの人が関わっていてこのフォーラムがつくられていてうれしくなりました。
- ・寒い中ご苦労様でした。託児があって助かりました
- ・もっとたくさんの人に来て聞いていただきたいと思うほどよかったです

問5) 今後お話を聴いてみられたい方がありましたら、お教えてください。

- ・四季の中で林業について話を聞きたいと思いました
- ・面白かったです。次は男性版をやって欲しい
- ・もっと若い人がたくさん来られたら良いのに!!
- ・女性でもできることがわかりました
- ・今日以上のゲストの方は？一度でなくて何度でも
- ・自伐や CLT のお話
- ・三重県のゴリーキマリンビレッジの大塚隆さん
- ・中嶋健造さん（土佐の森 救援隊）
- ・富山重篤氏 山の植林活動に取り組む気仙沼の漁師さんです
- ・米田亜沙美さん
- ・CW ニコルさんのアファンの森の鳥取版があったらいいな〜と夢を見てました。

問6) 未来の森、林業への夢をお聞かせください。

- ・未来の森も癒しの空間であってほしいです。まったく関係のない仕事をしていますが、林業に興味があるので（中島彩さんの本を読ませてもらい…）講習会などあれば是非参加してみたいです。
- ・自給自足の源に
- ・里山に住んでおり、里山ようちえんを作りたいと思っています。
- ・つなぐ、ですね。
- ・森の中へ住みながら林業についてはほぼ無知識だったので、これから関心を寄せていきたい
- ・最近仲間3人とともに始めた会社を発展させていきたい。林地残材、製材屑パーク等のバイオマス現状で炭を作る会社です。
- ・林業（木材）で仕事が増えるようになってもらいたい
- ・誰もが当たり前で木を使う社会
- ・森林をいつでも見学できる道路づくりをしてほしいです
- ・地産地消、地域の自立
- ・動植物が繁栄し、子どもがあそび、人々の憩いの場所である森
- ・宮大工の人
- ・林業に従事する方々が安全に働ける環境整備、私たちが気軽に歩き楽しめる森林
- ・日本の山を繋げていきたいと思います
- ・間伐材の有効利用、活用
- ・森がもっと身近に生活とともにあればいいなと思っています。西村さんのお話にもあったように森の中で生まれるときから大きく育つまで子育てがしたいです
- ・生産のみが林業の視点でありませんが、消費者の側から林業をとらえる機会をもってほしい
- ・森に一般の人が親しみやすくなるよう、本の「里山資本主義」で紹介された北欧の国の「森マイスター制度」等利用し、一般の人が森に係わり易く、関心が持て、木の知識が増え、木の善し悪しの区別ができる人を増やし、森のファンを増やせたらいいな
- ・代々受け継がれてきた山が潤ってきてくれると植林した値打ちがあるのになあと思う
- ・子どもが成りたい職業となること。林業で高収入を得ることができること。→未永く生業として続くものとなること
- ・木が朽ちて新しい木が生え、またその木が枯れ朽ちて新しい木が生える、そんな森どこかにあっても良いのでは？
- ・日本の豊かな山林同士、資源を大切にしつつ、その恵みも活かしていく社会をつくっていききたいと思います。
- ・女性の活躍が林業を変えらると思う
- ・より多くの人に山に関心を追っていただけたらと思います
- ・森と人とが調和し、森も人も豊かになり、豊かに生きていける夢
- ・日本中の林業が元気になりますように！



編集後記

林業・森というキーワードから、これからの未来を考えるこのフォーラムには、開催地智頭をはじめ県内外からの参加者をお迎えすることができました。

フォーラム前の、実行委員の打ち合わせには、三重県の方が飛び入りで参加されました。無農薬のみかんづくり等をされながら里山での活動を志されている方でした。その場で「これは知人にも声をかけて、また参加に智頭に来ます！」とおっしゃってくださいました。フォーラム当日、お言葉通りに再び三重からお越しくださり、再会した時には、本当に嬉しさでいっぱいになりました。智頭で民泊もご利用くださったそうです。

こういうふうにおひとりおひとりの暮らしがある中で、このフォーラムに足をお運びくださるお気持ちを主催者としてはありがたく思いました。そして、このお気持ちに応えるには、これからも活動を続けたいと足元を見つめ直すきっかけともなりました。

林業、そして森に関わることには、本当に魅力がいっぱいです。森が身近にある豊かで楽しい暮らしには、林業という分野での活動が欠かせません。知れば知るほど、林業には、そして「鳥取の」また「日本の」林業には未来への可能性があり、夢があります。

ぜひ、お近くの森の扉を開いてみてください。

夢をいだきながら今日も活動をされている方々が、実はすぐそばにいらっしゃいます。

ご参加、ご協力くださったみなさまに感謝を込めて。

鳥取で、智頭で、またお会いできることを楽しみにしています。

(柚塾 事務局)

表紙写真：講師の中島彩さん手作りの髪飾り。フォーラム当日の髪飾りとして作られ、同じものをもう一つ作られ、スタッフにお贈りくださいました。杉のよい香りもしました。お花はご近所の方がくださったそうです。この素敵な優しさが、これからの林業には希望があることを実感させてくれます。

*この事業は、鳥取県森林環境保全税を活用して、「平成28年度とっとり環境の森づくり普及啓発事業」の「とっとりグリーンウェイブ森林環境フォーラム」として開催しました。

編集：林業と自然暮らしの実践塾「智頭の山人塾」柚塾

2017年1月制作